

2019参院選の課題と 市民野党結集の道筋

法政大学

山口二郎

1 日本政治の大きな危機

① アベ化とは何か

- 自己愛の強い幼児的リーダーの跳梁跋扈
- 批判に対する耐性の消滅
- 虚言、デマをためらわない、ウソがばれても恥ずかしくない
- 自己正当化のために歴史を捏造する

八方ふさがりの安倍政権

- 外交の安倍のウソ: やったふりだけ
- 北方領土問題解決の虚構
- トランプのアメリカと良好な関係を作るのは無理
- 用もないのに外国を訪問して国費を無駄遣いする首相

孤立する日本

- 日韓関係の悪化とナショナリズム扇動の罪
- 国際捕鯨委員会からの脱退という暴挙
- 強いものにへつらい、近隣の国々対して威張りたがる卑劣な国になりつつある
- ナショナリズムを煽れば支持率が上がる？

経済政策の破綻

- 日銀の機能不全： 株価維持装置と墮した日本銀行
- 企業業績の表面的好調と日本の産業の空洞化
- いつまで借金財政ができるのか： 途上国経済への転落の恐怖

② イヤな時代の本質

- 戦争のできる国になった日本
- 主観が客観を制圧する時代
統計不正と大本営発表
- メディアの抑圧と情報の隠蔽
- 戦争は嘘から始まる

イヤな時代の兆候

- 画一化への大きな圧力： 一億一心
- 「日本人」の活躍への拍手喝采と良き日本人
であれという圧力 スポーツの世界から
- 良くない日本人に対する排斥圧力

③ 国家の私物化

- 森友学園、加計学園疑惑の本質： お友達優遇政治
- 行政の公平性の破壊
- えこひいき、公文書改ざん、統計不正は一続きの腐敗

専制国家日本

- 法の支配： 為政者が法に従って統治する

- 家産制国家： 近代以前の統治の姿

次第に共同体（国家）の規模が拡大していくと、支配者は支配の効率化のために官僚や軍隊を備えるようになり、この力を背景として被支配者のある程度まで恣意的に支配できるようになった。これが家産制であり、自らに忠実な官僚・軍隊組織を介在させた恣意的な支配が可能な体制である。

法の支配から人の支配へ

- 権力者の私的な支配が国全体を覆う
- 人の支配: あるものをなかったことに、なかったものをあったことにする
- 政府内部における規律の崩壊
官僚は権力者に身分的に隷属する使用人
- 政府の外に対する権力の乱用: 罪刑法定主義の否定としての共謀罪

大衆の反逆(オルテガ)

- 《慢心した坊っちゃん》はとてつもなく異常なものだということがわかれると思う。なぜなら、彼は自分でしたい放題のことをするために生まれ落ちた人間だからである。
- 実際、《箱入り息子》は、自分の好きなことをしてもよいという錯覚を持っている。・・実際家族の内部では、ひどい罪を含めて何もかもが、結局は無罪となるからである。・・しかし《坊ちゃん》は、家の外でも家の中と同じように行動できると信じている人間であり・・取り消しがきかないものは何1つないと信じている

④ 政権交代なき議院内閣制

- 議院内閣制における立法権と行政権の融合
＝国会の権能は絵に描いた餅
- 裁判所に対する内閣の大きな影響力
- 歯止めとなるのは選挙における国民の意思表示と権力者の更迭

2 野党再編と政治状況

① 立憲民主党結党の背景

- 民進党分裂の経緯： 前原と小池の錯誤
- 2015年安保法制反対運動以来の潜在的亀裂
- 憲法政策と市民との共闘をめぐる民主党・民進党内の矛盾
- 右寄りの野党再編に対する緊急避難としての意義

二大政党の幻想

- 1990年代以来の政党再編の挫折
- 小選挙区で生き残るという動機だけで政党をつくることの限界
- 基本的理念を共有するまともな政党の必要性
- 立憲民主党だけで政権交代が起こせるか？

リベラル軸への期待の大きさ

- 立憲民主党に対する期待は何だったのか
- 民進党の雑居性に対する不満
- 新保守勢力の脱落による「スッキリ感」
- 安倍政治に対する明確な対抗勢力への渴望

② 幅広い結集を

- 路線の整理： 安倍政治に対抗する穏健保守、リベラル、革新勢力の大結集
＝ 詳細な政権構想は不要
- まともな民主政治、立憲政治の回復という旗印
- 生活できる賃金と社会保障という基本合意

立憲民主党の課題

- 地方における組織実体の未形成
- 政治家の層の薄さ
- 得意政策の偏り： 経済政策の弱さ
- 唯我独尊路線の限界と連立政権に向けた構想の必要性

国民民主党の課題

- 曖昧な中道政党では期待は得られない: 支持率が低いことには理由がある
- 連合との関係をどう構築するか、単なる労組経由の企業利益代表では無意味
- 保守で非自民という市民層をいかにとらえるか
- 自由党との連携の期待される効果

共産党をどう見るか

- 市民野党協力という提言の画期性
- 民主主義擁護のために大同結集を進める姿勢
- 縁の下での力持ちとしての意義
- 市民野党協力と党勢拡大という課題の微妙な関係

野党協力をいかに構築するか

- 政党の一貫性と存在感のトレードオフという難題
- 立憲民主党を軸にした、中道連立政権構想
=2000年代の民主党モデルを目指さない
- 究極の理想より、5年先の日本を立て直すという
政策の共有を
- 2020年というターゲット

③ リベラルとは何か

- 独裁と戦争に反対する： 石橋湛山 斎藤隆夫
- 個人の尊厳を守り、あらゆる差別を許さない
- 人間らしい生活を可能にするための積極的な政府支出
- 戦後日本における自民党政治のリベラリズムを継承する

保守とリベラルの提携

- 戦後日本政治におけるリベラリズムの系譜
- 平和と平等という成果の確認
- リベラルと保守の提携による民主主義の擁護
- 地域レベルの多様な協力体制の構築へ

3 安倍政治の転換へ

① 今後の政治日程

2019年 4月 統一地方選挙

5月 新天皇即位

7月 参議院選挙

10月 消費税率引き上げ

2019年改憲発議の難しさ

- 天皇の代替わり(新時代の到来)と改憲を絡ませることのリスク
- 参院選と国民投票を重ねることのチャンスとリスク
- 増税後に予想される消費不況と改憲発議の困難

② 安倍政権の今後と憲法問題

- 自民党総裁選挙の意義
 党員票における石破茂氏の善戦
 国会議員をイエスマンで固めることの功罪
- 沖縄県知事選挙の意義
 国政の構図を持ち込んだ自民党の敗北
 沖縄県民のアイデンティティを前面に出した玉城氏の勝利

拒絶された安倍的手法

- 敵方を完膚なきまでに叩きのめさなければ気が済まない
- 反対の芽を摘むためにあらゆる権力的手段を取る
- 敵と味方の間にいる中間的な人々から大きな反発を招いた
- 力づくで戦うことの限界

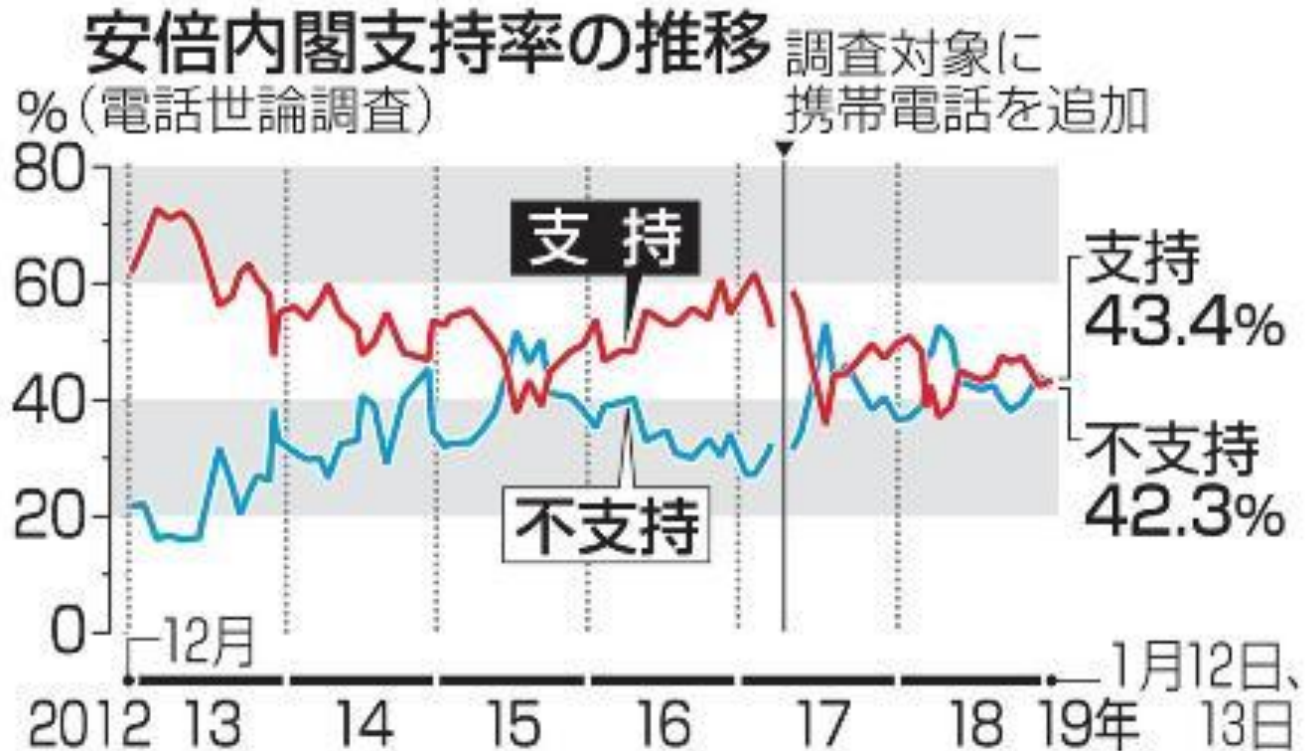
衆参同日選挙と改憲

- 安倍政権が本気で改憲を目指すなら、同日選挙こそ最善策
- **今年**の参院選までの改憲発議はかなり難しい
- 同日選で3分の2を確保したうえで、オリンピックの時期に改憲論議をぶつける可能性

③ 2019参院選の展望

- 亥年の参院選は自民党が不利だった
- 自民党の素早い立ち上がりと野党の出遅れ
- 野党側に増える要素が見当たらない現状
- 立憲民主も2017年の再来を期待してはならない

世論の動向 (2019年1月共同通信)



参院選の投票先

- 夏の参院選比例代表の投票先は、
- 自民党31・9%
- 立憲民主党9・4%
- 公明党3・5%
- 共産党3・2%
- 日本維新の会2・5%
- 国民民主党1・9%

政党支持率

- 自民党 前回比2・6ポイント減の36・0%
- 立憲民主党 2・3ポイント減の9・2%
- 公明党2・8%
- 共産党2・4%
- 日本維新の会2・4%
- 国民民主党1・4%
- 「支持する政党はない」 43・5%。

野党協力の課題

- 参院選のテーマを確認する： 改憲勢力の3分の2を阻止する
- 改憲阻止、正直で公平な政治の回復という目標
- 立憲民主党と国民民主党の調整という難題
野党にとっての大きな敵を見据える必要

2016参院選の結果（兵庫県）

	比例区		選挙区	
	得票	%		
• 自民	765,275	31.71		641,910
• 民進	382,320	15.84		420,068
• 公明	371,002	15.37		542,090
• 共産	248,576	10.30		228,811
• 維新	470,526	19.50		531,165
• 社民	48,556	2.01		

2017衆院選(比例)

- 自民 714,262
- 立憲 385,221
- 希望 298,558
- 公明 296,047
- 共産 179,725
- 維新 301,482

現状をどう見るか

- 強固な自公協力 10万票余りを回す
- 維新の勢力の持続
- 立憲民主の支持層はどうか
2017衆院選の希望票の半分を取り込むと
仮定すれば、当選圏に入れる計算

複数区における協力

- 政党の論理という壁
- 選挙区の候補者を下ろすことのマイナス
- 市民と野党の協力で共産党の比例票を増やせるか？

立憲野党支援の方法

- 2016参院選東京選挙区(6人区)の経験
- 世論調査で6位を争っていた小川敏夫(民進)への市民派のてこ入れ(ライバルは維新の田中康夫)
- 選挙区と比例を結び付けた協力体制は可能か